

年末年始の本船荷役実績の傾向等について
(2021.12.31～2022.1.4)

1. 昨年との比較

| | | 昨年 | |
|---------------------|------|--------|-------|
| ◦年末年始荷役実施港 | 65港 | (60港) | |
| ◦荷役隻数 (外航・内航の合計) | 880隻 | (726隻) | 154隻増 |
| 内訳 | | | |
| コンテナ船 | 235隻 | (198隻) | 37隻増 |
| RORO船 | 38 | (42) | 4隻減 |
| 自動車専用船 | 10 | (4) | 6隻増 |
| 在来船 | 341 | (278) | 63隻増 |
| その他船 | 256 | (204) | 52隻増 |

2. 傾向と要因

- ・年末年始荷役実施は、前年と比べ5港増加している。
- ・隻数については、全国では154隻の増、6大港では51隻の増となっている。
- ・船型については、RORO船のみが減少し、それ以外の船型は増加している。
全体の4分の1ほどを占めるコンテナ船の隻数は、コロナ禍等で落ち込んだ前年の反動増に加え、期間中の平日が2日から3日へ増えたこともあり、ほぼ2年前の水準に回復したと考えられる。
- ・地方港の「在来船」「その他船」については、原材料等の需要が堅調であるためと考えられる。

3. 外航コンテナ船取扱個数の比較

- ・隻数、取扱個数共に前年より増加した。
- ・コンテナ船235隻中、外航コンテナ船は231隻であり、隻数は前年を37隻上回り、取扱個数も約12万6700TEUと前年を約2万3500TEU上回った。
- ・6大港のコンテナ船入港隻数は173隻（前年比27隻増）であり、川崎、名古屋以外の5港が前年を上回った。取扱個数では横浜、川崎以外の5港が前年を上回った。また、1隻当たりの取扱個数も前年を上回った。国際海上コンテナ輸送のスケジュールが混乱している中、旺盛な需要が続いているものと考えられる。

年末年始の本船荷役実績 (2021.12.31 ~ 2022.1.4)

(隻)

| 区分 | | コンテナ船 | その他 〔RORO、自動車〕 〔在来船、その他〕 | 合計 |
|-----------------|---------|-----------|--------------------------------|-----------|
| 主要港 | 東京 | 36 (28) | 4 (4) | 40 (32) |
| | 横浜 | 36 (36) | 9 (3) | 45 (39) |
| | 川崎 | 2 (2) | 19 (11) | 21 (13) |
| | 名古屋 | 29 (31) | 21 (12) | 50 (43) |
| | 大阪 | 28 (18) | 40 (49) | 68 (67) |
| | 神戸 | 25 (18) | 5 (2) | 30 (20) |
| | 関門 | 17 (14) | 35 (27) | 52 (41) |
| | 6大港計 | 173 (147) | 133 (108) | 306 (255) |
| その他主要港 | 千葉 | 0 (3) | 30 (25) | 30 (28) |
| | 清水 | 10 (6) | 0 (3) | 10 (9) |
| | 四日市 | 6 (6) | 8 (7) | 14 (13) |
| | 博多 | 12 (16) | 2 (7) | 14 (23) |
| | その他主要港計 | 28 (31) | 40 (42) | 68 (73) |
| 11港計 | | 201 (178) | 173 (142) | 374 (328) |
| その他の港湾 (54港) | | 34 (20) | 472 (378) | 506 (398) |
| 合計 (65港) | | 235 (198) | 645 (528) | 880 (726) |

注) 1. ()内の数値については昨年実績

2. 数値は、外航船、内航船の合計値